

# EdTech 導入補助金2022

令和3年度補正 学びと社会の連携促進事業  
(先端的教育用ソフトウェア導入実証事業) 費補助金

## 効果報告レポート

【事業者名】

株式会社理究

【ツール名】

名人へのみち

【ツールの機能分類】

学習支援・授業支援 (LMS)

2023年2月

国語

読み聞かせの原理で、  
誰でも読書好き！

名人へのみち  
Meijin - eno - michi

算数

問題はオールデジタル。  
採点結果はリアルタイムで一覧化！

## 【**理究**の提供するソフト】

# 名人へのみち

「名人へのみち」は  
小学生用の学習アプリです。  
読書好きを育成する「よむとく名人」と  
算数の技能を高める「さんすう名人」の  
2教科を用意しています。



# 【名人へのみちの特徴】

## よむとく名人(国語ソフト)

- ・小学生の読む力を育む
- ・読書を通じて活きた語彙力を育む
- ・名作を通じて豊かな感性と知性を育む
- ・デジタルブックにより全員が同じ本を読む

## さんすう名人(算数ソフト)

- ・デジタル完結  
手書き入力→自動採点→自動集計
- ・個別最適化学習(マイペース・マイプラン型)  
下位層から上位層→3段階課題分別提示

## LMS 学習管理システム 学習成果の一覧化と進捗管理

費用 月額児童1人 月額800円

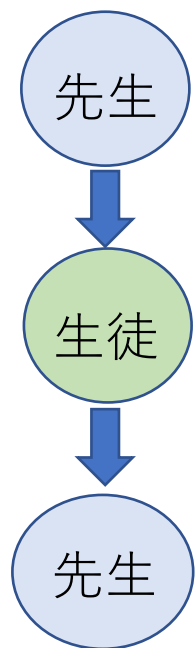
上記費用には初期導入研修含む

【名人へのみち導入で解決したい課題】

教育現場での意見交換・感想聴取から

1. 学びの個別最適化の実現が難しい
2. 採点業務/学習進捗管理などの効率化をはかりたい
3. 主体的に学習できる児童が少ない
4. 家庭学習の把握や管理に限界がある

## <さんすう名人の活用事例①>



先生 課題をさんすう名人で一括登録。

### 業務の効率化

問題プリントのコピー時間・配布時間削減

### 業務の効率化

採点時間削減

生徒 課題の演習。解き終わった児童から自動採点。  
早く解き終えた児童は次の課題へ。

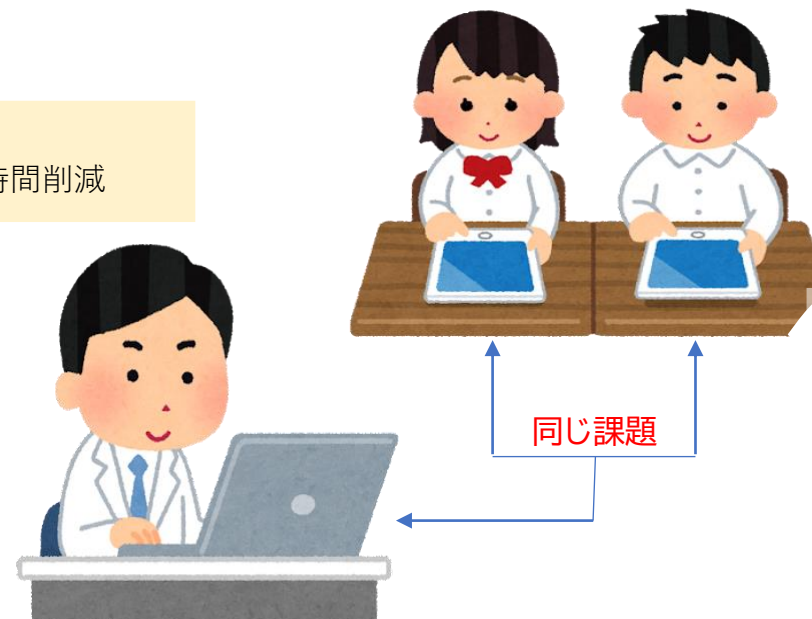
### 個別最適化

児童の定着度に合わせた指導

先生 躓いている児童への個別指導。  
リアルタイムで生徒ごとの正答率・誤答例を分析。  
分析結果は、次の指導内容へ反映。

### 業務の効率化

リアルタイムで誤答分析

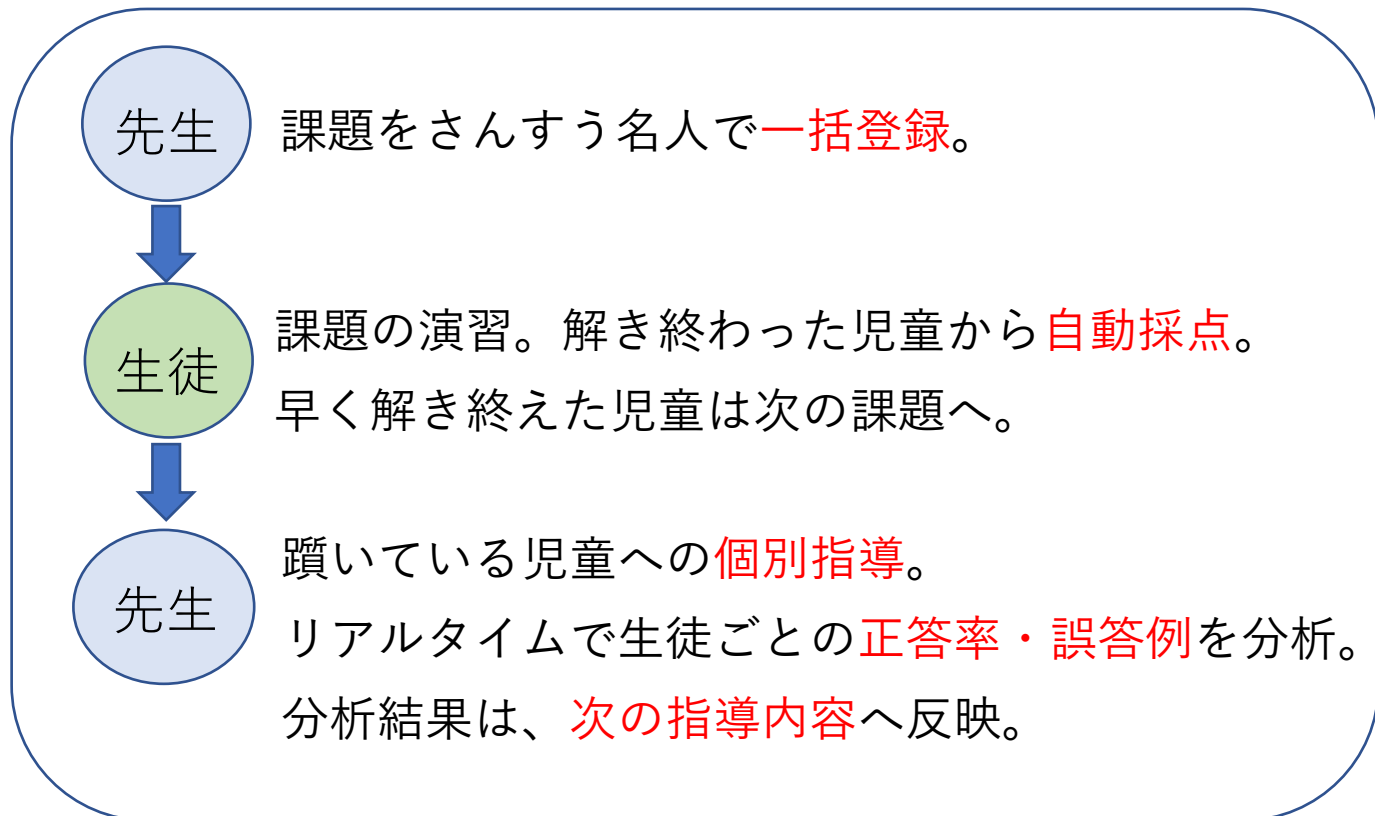


先生画面

題実施結果を表示

受験人数	平均タイム	配点	平均点					
6	04:28	12	7.3					
解答	生徒名	1	2	3	4	5	6	7
解答を見る	4年2組 2番(4年2組2番)	○	○	○	×	○	○	○
解答を見る	4年2組 7番	○	○	○	○	×	×	○
解答を見る	4年2組 5番	○	○	○	×	○	○	×
解答を見る	4年2組 3番(4年2組3番)	×	○	○	×	×	○	○
解答を見る	4年2組 6番	○	○	×	○	×	×	×
解答を見る	4年2組 1番(4年2組1番)	○	×	×	×	○	○	×
問題を見る	問題別正解数	5	5	4	2	3	4	3
	問題別正答率	83%	83%	67%	33%	50%	67%	50%
		採点	採点	採点	採点	採点	採点	採点

## <さんすう名人の活用事例①>



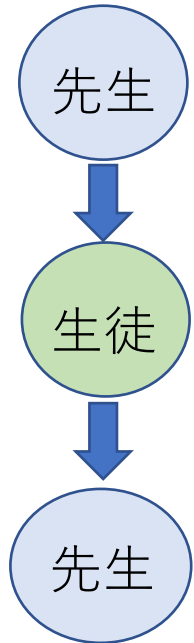
### 授業フロー例 算数の授業(45分)



## <さんすう名人の活用事例②>

### 個別最適化

児童の定着度に合わせた指導



先生 苦手単元がある特定の児童に、**復習単元**の課題を登録。

### 業務の効率化

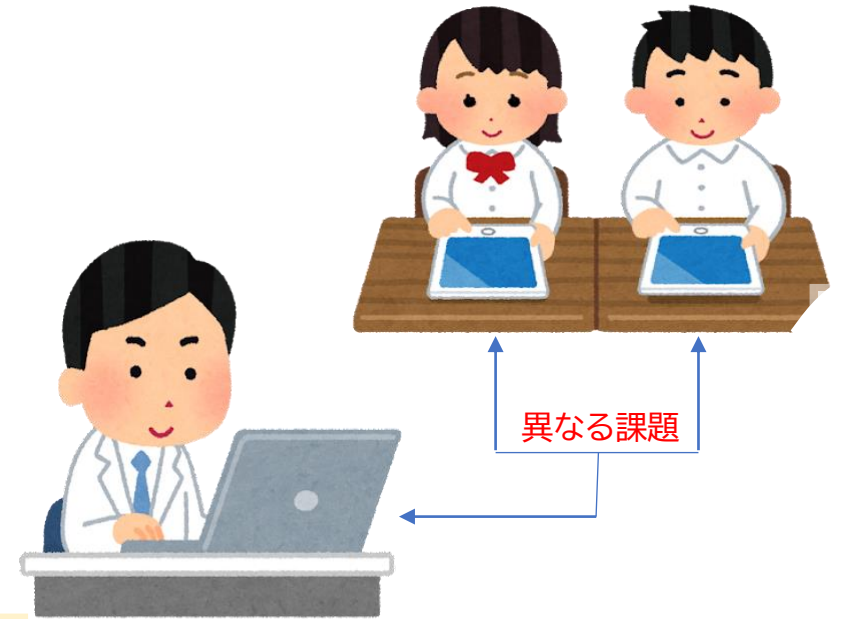
採点時間削減

生徒 課題の演習。解き終わった児童から**自動採点**。

### 個別最適化

児童の定着度に合わせた指導

先生 リアルタイムで復習単元**定着レベル**を確認。  
定着確認後、再度苦手単元の指導へ。



↑小3「**2けた×2けた**」に課題のある児童へ、  
復習単元課題「**2けた×1けた**」を出題



## <さんすう名人の活用事例②>

授業フロー例  
朝学習(10分)

ドリル演習  
個別指導  
(10分)

先生

苦手単元がある特定の児童に、**復習単元**の課題を登録。

生徒

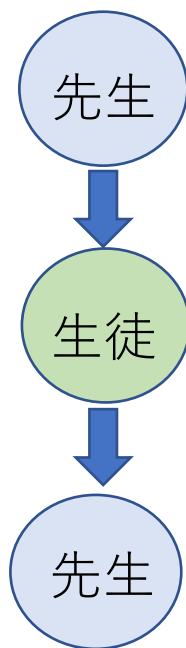
課題の演習。解き終わった児童から**自動採点**。

先生

リアルタイムで復習単元**定着レベル**を確認。  
定着確認後、再度苦手単元の指導へ。



## <よむとく名人の活用事例>



先生 小4国語の授業で「ごんぎつね」を学習。

**業務の効率化**  
図書管理や手配が不要



生徒 新見南吉作品(全21作品収録)を**並行読書**。  
自分に合った**音声朗読速度**で、多くの作品を読破。

**個別最適化**  
児童の定着度に合わせた指導

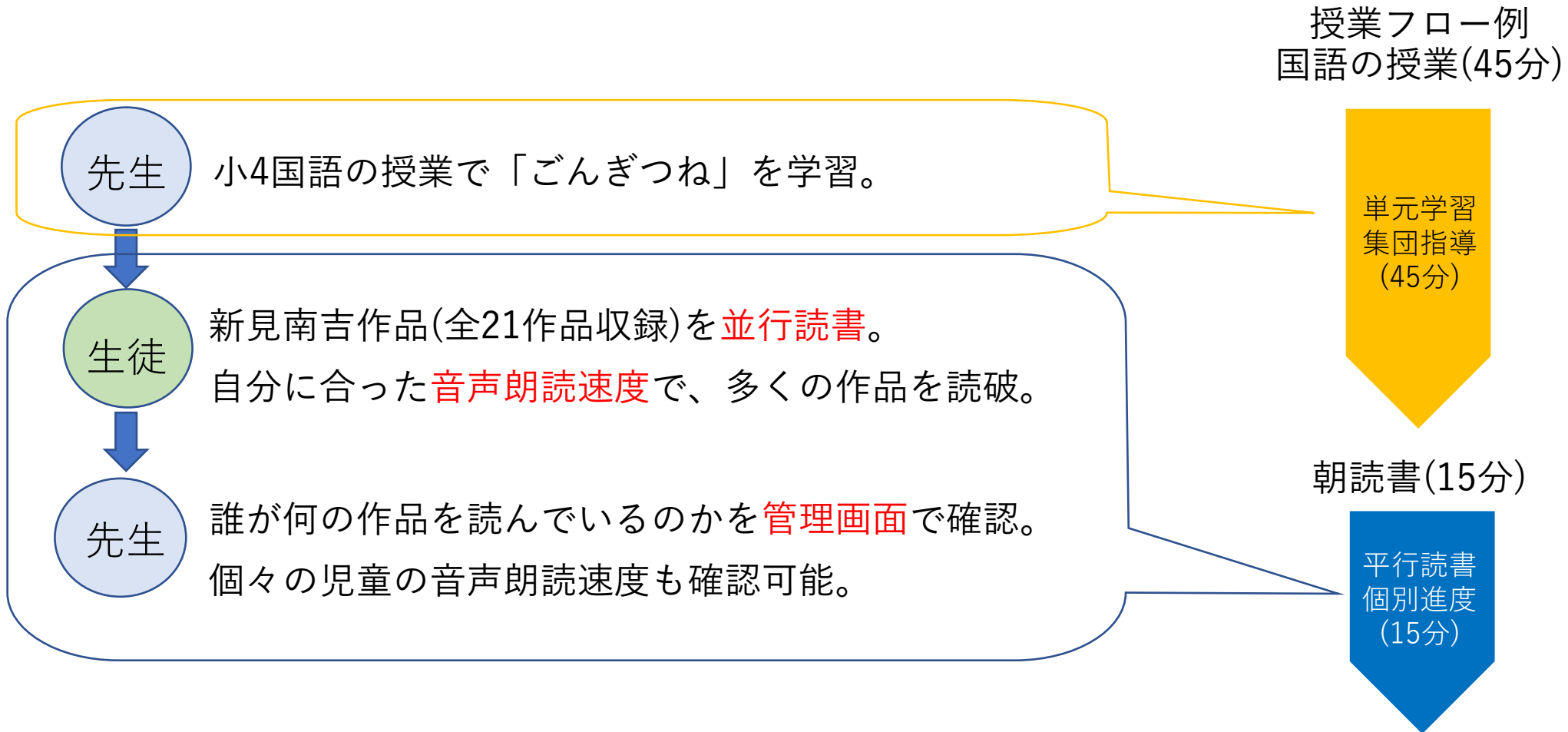
先生 誰が何の作品を読んでいるのかを**管理画面**で確認。  
個々の児童の音声朗読速度も確認可能。

**業務の効率化**  
リアルタイムで読書記録一覧



No	受講日	出欠	グレード	9分冊	15分冊	開始時 15分冊No	終了時 15分冊No	15分冊 再生状況	倍速	備考
1	2022/06/08(水) 15:42:00	出席	2A	2A-05 したきりすずめ	1	1	終了	終了	1.0	
2	2022/06/13(月) 15:00:00	出席	A3	A3-15 ないた あかおに	1	1	終了	終了	2.2	
3	2022/06/15(水) 15:34:00	出席	2A	2A-01 うきわねこ	1	1	終了	終了	1.0	
4	2022/06/22(水) 15:32:00	出席	2A	2A-02 おれさまはようかいやで	1	1	終了	終了	1.0	
5	2022/06/22(水) 16:02:00	出席	2A	2A-04 くいしんぼうのはなごさん	1	1	-	途中	1.2	
6	2022/06/29(水) 15:28:00	出席	2A	2A-04 くいしんぼうのはなごさん	1	1	終了	終了	1.2	
7	2022/06/29(水) 16:00:00	出席	2A	2A-07 999ひきのきょうだいのはるですま	1	1	終了	終了	1.2	
8	2022/07/02(土) 16:54:00	出席	2A	2A-05 したきりすずめ	1	1	-	途中	1.0	
9	2022/07/06(水) 14:56:00	出席	2A	2A-10 にんぎょひめ	1	1	終了	終了	1.0	
10	2022/07/13(水) 14:49:00	出席	2A	2A-09 はなさかじいさん	1	1	終了	終了	1.0	
11	2022/07/13(水) 15:17:00	出席	2A	2A-11 りゅうのめのなみだ	1	1	終了	終了	1.0	
12	2022/08/25(木) 09:19:00	出席	A3	A3-06 れいぞうこのなつやすみ	1	1	終了	終了	1.0	
13	2022/08/25(木) 09:42:00	出席	A3	A3-08 カラーライスはこわいぞ	1	1	終了	終了	1.0	
14	2022/08/26(金) 09:32:00	出席	A3	A3-04 じゃんけんねこ	1	1	終了	終了	1.0	
15	2022/08/29(月) 09:37:00	出席	A3	A3-15 ないた あかおに	1	1	終了	終了	1.0	
16	2022/08/30(火) 09:25:00	出席	A3	A3-09 さいりういぼけつ	1	1	終了	終了	1.0	
17	2022/09/14(水) 15:41:00	出席	A3	A3-01 いたずらきかんしゃちゅうちゅう	1	1	終了	終了	1.2	
18	2022/09/21(水) 15:31:00	出席	A3	A3-05 てがみをください	1	1	終了	終了	1.0	
19	2022/09/21(水) 15:40:00	出席	A3	A3-03 おほけのはなし(1)	2	1	1	終了	1.0	
20	2022/10/03(月) 21:24:00	出席	2A	2A-03 すずおばあさんのハーモニカ	1	1	終了	終了	1.0	

↑管理画面では、作品名や朗読速度が一覧化

## <よむとく名人の活用事例>



## <授業時間以外での活用事例>

南瀬谷小学校	桐蔭学園小学校
<p>朝読書の時間は、実際の図書を読む児童とよむとく名人のデジタルブックでの読書を楽しむ児童に分かれる。読みたい図書により児童自ら選択している。</p> 	<p>夏休みの算数の課題を、ドリル帳からさんすう名人での演習に変更。1週間ごとに進捗状況を確認し、順調に進めていない児童へはメールを通して励ましや質問のやり取りをして、課題完遂まで見守ることができた。</p> 

### 主体的な学び

読書や算数単元ドリルの演習

### 家庭学習の管理

管理画面で進捗把握ができ、先回りしたアドバイスが可能

## 【サポート内容】

### ◇ 導入時（通常サポート）

- ・ 2要素認証によるログインサポート
- ・ マニュアル（動画・テキスト）説明
- ・ ツール操作説明
- ・ 児童・教員情報入力サポート
- ・ 教育委員会への情報提供補助



### ◇ 導入後サポート体制（補助金サポート）

- ・ 専任スタッフによるメール質問対応
- ・ ZOOMでのオンライン操作説明
- ・ 訪問サポート
- ・ 転校生、転入生情報修正

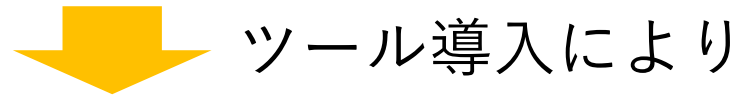
# 名人へのみち 導入実績 3校 (補助金対象)

学校名	導入学年	クラス数	児童人数(納品時)
横浜市立 南瀬谷小学校	小学1年～小学6年	27クラス	706人
横浜市立 上瀬谷小学校	小学1年～小学6年	15クラス	387人
私立 桐蔭学園小学校	小学1年～小学6年	18クラス	586人

合計 1679人

## 課題に対する効果報告


### 課題1 「学びの個別最適化の実現が難しい」



- ① 自動採点によりリアルタイムで個々の定着度が把握できるので、その定着度に応じた問題付与が可能になった。(さんすう名人)
- ② 全学年の復習も可能であるため、個々の苦手単元の克服を休日の課題として問題付与ができた。(さんすう名人)

## 課題に対する効果報告

### 課題2 「採点業務/学習進捗管理などの効率化」

 ツール導入により

- ① 自動採点により採点業務が削減。  
個別最適化の対応に当てる時間確保が容易になった。(さんすう名人)
- ② 進捗や定着が一覧管理されているため、把握しやすくなった。  
(さんすう名人・読むとく名人)




## 課題に対する効果報告

### 課題3 「主体的に学習できる児童が少ない」

この課題については、半年という実証期間においては報告できる成果は得られませんでした。

## 課題に対する効果報告

### 課題4 「家庭学習の把握や管理に限界がある」

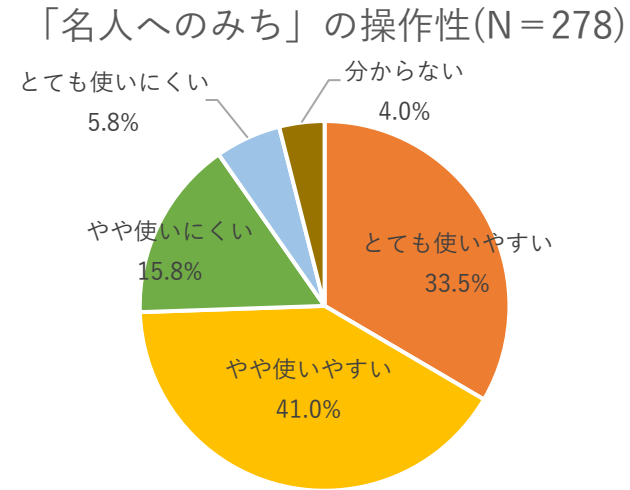
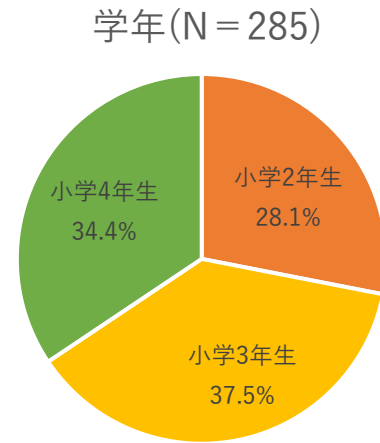
 ツール導入により

- ① 長期休暇の課題を、  
算数ドリルに替えて「さんすう名人」へ  
読書は「読むとく名人」にて  
これにより、**休暇中でも進捗が把握**でき、  
また、**別の課題の提示**や**学習内容の具体的指示**ができるようになった。  
(さんすう名人・読むとく名人)

## 先生方との打ち合わせ記録より

- ◇読書が苦手な児童が、音声朗読により**読書に集中**できるようになった。  
(よむとく名人)
- ◇前学年の復習もできるので、ドリルの**コピー時間**が大幅に減った。  
(さんすう名人)
- ◇採点時間が減った分、**個別最適化**に充てる時間が増えた。  
(さんすう名人)
- ◇実施後すぐに定着不足の**実態把握**ができ、授業への対応が可能になった。  
(さんすう名人)

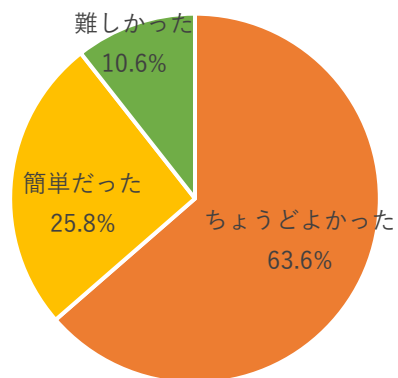
## 児童アンケート集計



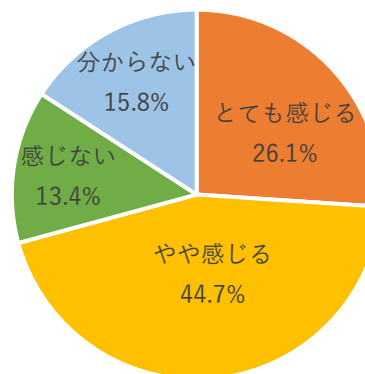
- ・ 小2～4の児童285人から回答
- ・ アプリの操作性は、74.5%が「使いやすい」

## 児童アンケート集計

「さんすう名人」の問題の難易度(N=283)



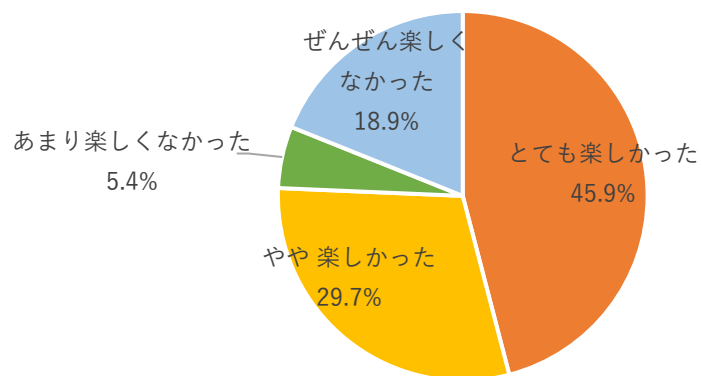
「さんすう名人」の学習成果(N=284)



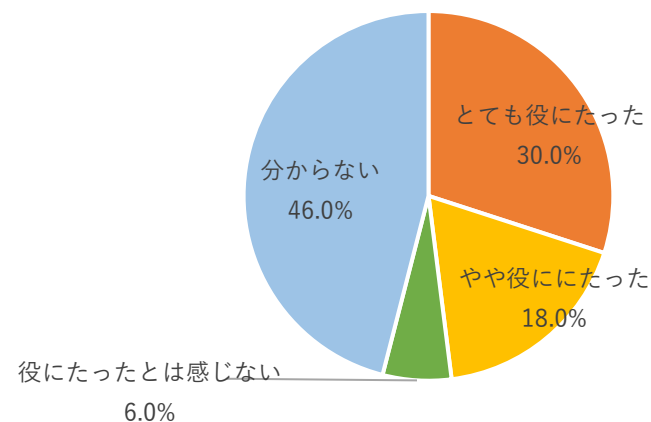
- ・ 「さんすう名人」の問題難易度は、63.6%が「**ちょうどいい**」  
→25.8%の「簡単だった」については要検討
- ・ 「さんすう名人」の学習成果は、70.8%が「**成果を感じる**」

## 児童アンケート集計

「読むとく名人」での読書の楽しさ(N=37)



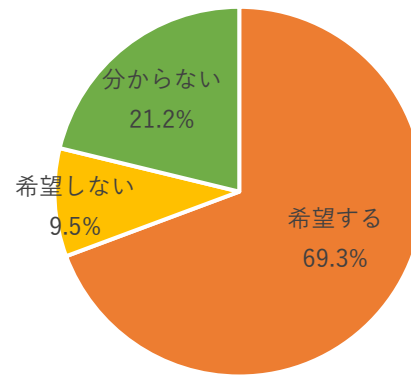
「読むとく名人」の音声朗読の効果(N=50)



- 「読むとく名人」の読書の楽しさは、75.6%が「**楽しい**」
- 「読むとく名人」の音声朗読成果は、「**役にたった**」が48.0%  
→音声朗読を活用せず「分からない」と回答していると推察

## 児童アンケート集計

「名人へのみち」の継続希望(N=264)



- ・ 「名人へのみち」の継続は、69.3%が「**継続を希望**」



## 教員からのコメント(一部)

<p>A先生 (小2担任)</p>	<p>タブレットでの問題演習には、教科学習以外の要素(端末の操作性など)も必要で、低学年ほど導入に不安があった。初回の授業でサポートに入ってもらい不安解消し、多くの児童で問題なく運用できることが分かった。一方で、30人規模のクラスでの初回運用にはサポート人員(児童8人にサポート1人程度)の投入が不可欠であると感じた。</p>
<p>B先生 (ICT担当)</p>	<p>教員研修の時間が多く取れない中での導入となったため、教員の間でも積極派と消極派での温度差が埋めきれなかった。そのため導入当初は思うように活用してもらえなかったが、少しずつ拡大しているのが現状である。</p>

## ■ EdTechツールを活用した児童・生徒・教員のコメント感想等

<p>C先生 (ICT担当)</p>	<p>地域の算数部会において、他の小学校でのさんすう名人の運用実績を聞いて導入に至った。近隣小学校で積極的に運用されているのは安心材料であり、さらには情報交換も容易にできることは大きなメリットになる。運用しながらツールへの提案なども多くさせてもらい、改修に反映させてもらった事例もあり、とてもありがたい。</p>
<p>D先生 (小4担任)</p>	<p>端末の自宅持ち帰りは現状認められていないため、学校内での活用のみとなっているが、今後持ち帰り可能となれば可能性は広がると感じる。算数の反復ドリルや読書を土日や長期休暇での家庭学習へと切り替えることができれば、学校の授業では「個別最適化対応」や「思考・判断・表現力の育成」が可能と考える。</p>

## ■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

課題	改善策
教員の導入に対する負担感	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 導入後の負担減のメリット事例の発信</li><li>・ ソフトの操作性を簡潔化</li></ul>
導入初期のサポート体制	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 初回授業へのサポート人員派遣</li><li>・ 学内ICT支援員との連携</li><li>・ 初回導入動画など教員サポートツールの充実</li></ul>
よむとく名人では児童個々のイヤフォンが必須	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 家庭負担への理解(クラス単位で理解を得られているケースの報告はあるが学校単位では障害あり)</li></ul>
データの一覧化(アウトプット)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 評価と連動できるような一覧の提示</li><li>・ 学校現場からのヒアリング</li></ul>

会社名 株式会社 理究  
代表取締役 米田 正人  
本部 横浜市神奈川区金港町5-32  
ベイフロント横浜  
創立 昭和56年11月現在42期  
資本金 48、750千円

グループ企業 株式会社 理究エデュオ(100%出資子会社)  
株式会社 発達教育研究会(100%出資子会社)  
株式会社 理究(100%出資子会社)





## 【2022年度(41期)】

- グループ総売上 **7、984**百万円
- 全営業所数 **167**箇所 (2022/7 現在)
- 従業員数 **3、005**名(非常勤含む)
- パートナー教室 **420**教室以上(教育ソフト提供)

・ 問合せ窓口 株式会社理究 総合受付 045-461-4149

## 【課題1.学びの個別最適化の実現】

集団授業において「個別最適化」を実現するためには、ICTツールの活用は不可欠であることは、今回導入いただいた小学校の先生方に認識いただくことができた。

以下、その根拠を列挙する。

- ・ 読書スピードが児童により異なる → 個々のペース(音声朗読速度)での読書を奨励
- ・ 読書が苦手な児童でも音声朗読があれば読書に取り組むことができる
- ・ 同じ算数ドリルでも、問題を解く早さは異なる
  - 課題を複数登録しておくことで、早く解き終えた児童は別課題に着手
  - 躓きのある児童には、問題演習の時間を利用してフォローの時間が確保
- ・ 定着度により、個々の児童に課題を変えて出題できるのが理想 → 時間の確保に課題

## 【課題2.業務の効率化】

時間削減という点においては、以下の実績が確認できた。

- ・ 算数ドリルのコピー時間削減
- ・ 算数ドリルの配布時間削減
- ・ 算数ドリルの採点時間(大幅)削減
- ・ リアルタイムで、自動の学習記録や進捗が一覧化され確認可能
- ・ 図書の手配不要
- ・ 図書の管理不要

時間の削減で期待できると考えられるのは、

- ・ これまでできなかった指導の時間を確保 → 個別最適化学習や思考・判断・表現力の育成
- ・ 教員の労働時間短縮

今回の検証期間では確認するには至らなかったが、引き続き注視していきたい。



## 【課題3.主体的な学習の実現】

「主体的に学習に取り込む態度」には、次の2つの側面を文科省は挙げている。

- ①粘り強い取組を行おうとしている側面
- ②自らの学習を調整しようとする側面

今回の検証では、この課題に対する成果は確認できなかった。

以下を今後の検証事項としたい。

- ・算数の「知識・技能」の修得に向けて、自ら課題を見つけさんすう名人に取り組む姿勢
- ・読書が苦手な児童においては、音声朗読による読書の楽しさを体験
- ・読書が得意な児童においては、さまざまなジャンルの図書を読むことで世界を広げる体験

## 【課題4.家庭学習の管理】

今回対象校となった私立小学校では自宅での学習ツールとしてタブレット端末を活用しているが、公立小学校では自宅持ち帰りは認められていない場合もある。今後、公立小学校でも持ち帰り学習が始まることは十分に考えられることから、本課題の検証は今後に生かせると期待したい。

夏休みの算数課題をドリル帳から「さんすう名人」に変えたことによる成果は以下の通りである。

- ・ 期間を区切って出題(1週間単位で出題)
- ・ 進捗が随時確認できる → 進捗が芳しくない児童への事前連絡
- ・ 定着が不安な児童へ、途中から別課題(前学年の復習)に切り替え
- ・ 始業式の前に全児童の進捗を把握